

祝 辞

九州大学名誉教授
河野 昭彦

福岡県建築鉄骨協議会が創立20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

その初代会長を務めさせていただいたことは、私の誇りでございます。

この協議会の発案は、工業組合福岡県鉄構工業会の中野盛行氏（当時工業会事務局長）です。同氏は、平成14年に一口孝道氏（当時工業会理事長）と共に、私と濱田敬二氏（当時JSCA九州支部顧問）をお呼びになり、次の提案をされました。つまり、「建築鉄骨の品質向上を目指したいが、それには、建築鉄骨の関係団体、行政機関及び研究者の協力が必要である。工業会の立場から、工業会を広く理解してもらおうと同時に様々な御意見を頂戴できれば建築鉄骨の品質向上に直結すると思う。そのために、産官学が協議をする場を作ってはどうか」というものでした。

私と濱田氏は即座に賛成し、協議会創立へ向けて話合いを始め、協議会の趣旨を固めました。そして、大学・高専の先生方、JSCA九州支部の方々、並びに行政（福岡県、福岡市、北九州市、久留米市）の方々へご説明し、趣旨をご理解賜りました。皆様のお陰で創立20周年を迎えることができたこと、そして、変わらず熱心に協議会の発展に尽くして来られた工業会に、心より感謝申し上げます。

さて、協議会では多岐にわたる話題が協議されました。中でも記憶に残りますのは、2005年の福岡県西方沖地震の被害調査です。協議会創立3年目のことでした。被害が最も激しかったのは玄界島でした。また、警固や今泉地区の建物も相応の被害を受けました。この時、協議会の産官学の協力体制が極めてうまく機能し、これによって初動調査、応急危険度判定、被害悉皆調査、玄界島等の復興が円滑に行われたと思っています。

もう一つ取り上げるとすれば、ファブリケーターの工場見学です。2003年は、Hグレードの川重鉄構工事株式会社（現川重ファシリテック株式会社）と松井工業株式会社の見学をさせていただきました。産官学のいずれも若い方はファブの工場を見た方は少なかったので、製作現場でどうやってモノづくりが行われているのか、大変興味深く見学されていた様子が忘れられません。

これからも、協議会が、安全で合理的な建築鉄骨の普及と発展に貢献することを心より願っております。